

2024年6月26日

学校法人三幸学園
東京ウェディング&ブライダル専門学校
校長 高橋 斉 殿

学校関係者評価委員会
委員長 安澤 真衣

学校関係者評価委員会実施報告

2023年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 安澤 真衣 (株式会社エスクリ)
- ② 保科 怜捺 (株式会社ベスト-アニバーサリー)
- ③ 中島 響 (第8期卒業生)
- ④ 仁志 裕造 (飛鳥未来高等学校 池袋キャンパス キャンパス長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024年6月26日 (会場 東京ウェディング&ブライダル専門学校 301教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023年度 学校法人 三幸学園 東京ウェディング&ブライダル専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 末安 由香

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 安澤 真衣

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ウェディング分野の学校として「最幸の結婚式を通じて、日本そして世界の家族を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ウェディング分野として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNo. 1のプランナー・コーディネーターとなる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

(1) 重点施策

「ブライダル業界で活躍できる人材を育成する」をゴールとし、「社会人意識を持つ→職業観を養う→自信がつく→プロ意識を持つ」というステップを2年間の育成軸として指導を行う。また、【授業・学校生活を通して身に付ける社会人基礎力】、【授業を通して身に付ける専門知識や技術】をベースに、2年間で必要な力を行事と連動しながら身に付けることができる生徒指導を行う。

(2) 振り返り

・行事を通してコミュニケーション能力の強化をはかるため、比較的コミュニケーションが苦手な傾向にあるブライダルヘアメイク&ドレス科の1年生の行事(模擬挙式・ドレスショー)を、クラス混合で行った。生徒からは、クラスを超えて友人が増えたという声も多く、学科としてまとまりが出た。一定の成果を収めたため、2024年度も継続して行っている。

・2023年度の教務スローガンは「ルールとリレーション」であった。授業や学校生活上の「ルール」(学生にとって学びやすい環境にするための決まり)と、クラスメイト同士で本音の交流をし、プラスとなる(支え合う・励まし合う)関係性を築く「リレーション」が高いクラスを作ることを目標としていた。しかし、卒業生アンケートの「入学時点で提示された学校の規律は最後まで徹底されていたか」という項目に関して、2022年度よりも低い結果となった。このため、2024年度の教務目標は「授業の環境設定の徹底」に設定した。1年次の最初に行う「スタートアッププログラム」の継続を両学年ともに目指す。

・企業訪問を行い、伺った現場の声を生徒指導に活用するため、会議内で企業担当者からの勉強会を実施した。

また、放課後に任意で参加できる就活サークル(1年生対象)を5月から行い、職種の理解をより深めるために業界出身の教員が経験談を話し、質問に応じる機会を週に2~3回設けている。

② 学校関係者評価委員会コメント

・授業や学校生活上のルールを守ることができない学生は、守ることで何ができるようになるのか想像ができていない。なぜルールを守るのか、守ることが何に繋がるのか、イメージや動機づけをすると良いと思う。また、自分自身の見せ方や立ち振る舞いは働くうえでとても重要になるため、在学中に身に付けることができると良いと思う。(中島委員:ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイク&ドレス科)

・号令やうなずきは東京ウェディング&ブライダル専門学校に入学してからできるようになった。ただ、中には学校内だからやらなくても良いと思っている学生もいる。会社説明会やインターンシップ参加時にリアクションの大切さを感じ取った学生は、できるようになるのではないかと思うので、そういった機会が多くあると好ましいと感じる。(保科委員:ブライダルヘアメイク&ドレス科)

・授業や学校生活上のルールは守らなくてはいけないと分かってはいたが、素直に従うことができなかった。そのような状況の中で企業の人事の方が行う授業に参加した際に、お辞儀や号令の指摘を受けた。このままだと就職活動が上手くいかないのではないかという危機感を覚えたため、変わるきっかけとなった。企業と関わる機会がモチベーションの向上につながると感じた。自身の経験から今の学生たちにも同様のきっかけを学校から与え続けてほしい。(安澤委員:ウェディングプランナー科)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想

留学生やリカレント教育に対する対応ができていない状態である。また昨今生徒の家庭環境も多様化・複雑化しているため、それぞれの生徒に合わせた対応をしていくことが求められる。

② 今後の改善方策

昨年度に引き続き心の問題を抱えている生徒に対して、スクールカウンセラーの周知と促しを行っていく。また、新しい制度としてスクールソーシャルワーカーを今年度は活用し、心の問題だけでなく、家庭や生活環境で問題を抱えている生徒に対して、関係機関等との連携や調整を行ってもらうことにより、生徒の生活の質の向上をはかる。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・家庭環境が複雑な学生が多い。18歳未満だと児童福祉法が適用され公的な保証を受けることができるが18歳を超えると適応外となってしまう。学校に関わることができる範囲には限度があるため、公的機関との関わり方が重要になる。そのため、スクールソーシャルワーカーの存在は大切になると感じている。学生にとっても、安心材料に繋がるのではないかと思う。(仁志委員:ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイク&ドレス科)

・心の問題を抱えている学生は、気分の浮き沈みはあるが環境に馴染むことができると落ち着くことが多い。粘り強い声掛けが必要となる。(仁志委員:ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイク&ドレス科)

・通信制高校の担任は、学校での出来事を保護者に報告し担任と生徒だけではなく家庭内でもフォローをしてもらえるように、密に連携を取るようになっている。そこでの家庭との信頼関係も生徒指導に有益になるため、手間はかかるが、専門学校でも取り入れてみてはどうか。(仁志委員:ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイク&ドレス科)

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・情報システム化による業務の効率化

作業効率をあげるため、今後に残せる授業データの蓄積や、Teams を活用した情報共有・データ共有を進めている。業務効率は上がってきているが、残業時間の大幅な短縮には至っていない。特に、授業データがない教科に関しては、新しい担当教員がはじめてから作成をしているという現状がある。

② 今後の改善方策

多くの教員が時間を割いている授業準備の時間を削減するための施策が必要である。全国に姉妹校がある強みを利用し、引き続きパワーポイントを中心とした授業データの蓄積を続けるとともに、並行して ICT ツールを積極的に取り入れていきたい。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・Teams を使用しているが、良い所も悪い所もあると感じている。業務効率は上がっているが、連絡を簡単に取ることができる故の弊害もある。新入社員に使用方法を教える必要もでてくるため、残業時間の削減に繋げることが難しい現状がある。また、お客様との打ち合わせの際は、紙の資料を使用し「何を言ったか」を明確に残すことで、クレームを未然に防ぐことができる。データでのやり取りは、企業同士では良いが、お客様や生徒に対しては、伝達が上手くいかない時があると感じている。（安澤委員：ウェディングプランナー科）

・Teams だと連絡が埋もれてしまうため、コミュニケーションをとる際は Teams を使用し、依頼事項はメールで行うようにしている。また、目的に合わせてデータだけではなく紙媒体も活用している。（仁志委員：ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイク&ドレス科）

・社内の連絡事項は社内の LINE を使用しており、お客様とのやり取りはメール及び LINE を使用している。また、社内で使用する資料は Google ドライブに項目ごとに分けて格納し、お客様用の資料は紙で渡している。Google ドライブを活用することで新入社員でもすぐに資料が確認できるため良いと感じている。（中島委員：ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイク&ドレス科）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

特に問題なし

② 今後の改善方策

今後も適正な運営を継続していく

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・自分自身が学生の頃は就活サークルといった勉強会はなく自主的に先生に話を聞いていた。クラスで就職活動の状況を探り合うことがありプレッシャーに感じていたため、就活サークルといった取り組みは良いと感じる。(安澤委員:ウェディングプランナー科)

・私が勤める企業では分業体制を導入しており、新規接客と打合せが分かれているため、入社後にギャップを感じる人も多い。セールスやフェアの知識を在学中に学んでいる事でギャップが減少するのではないかと思いますので、よい

取り組みだと思う。また、在学中、新規接客時におけるクロージングやアイスブレイクを学び、知識はあったが実践する機会がなかったため、実践の場があるとより良いのではないかと思う。(安澤委員:ウェディングプランナー科)

・美容師免許取得コース(通信課程併修制度)に通っていたため、入学して間もない時期は就職活動を想像することが難しかったが、2年間で就職先が決まるか不安に感じていた。そのため、1年生の早い時期から就活サークルが行われているのは良いと感じる。(保科委員:ブライダルヘアメイク&ドレス科)

・入学当初は意欲が高く就職活動に意識が向いているため、5月から就活サークルを行うことは良いと思う。任意参加だと参加をしない学生も多いと思うので、実際に参加をした学生が積極的に声をかけることで参加する学生が増えるのではないかと感じる。(中島委員:ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイク&ドレス科)

・様々な方に対するの対応力を、在学中、先生の生徒対応や新入生向けのスタートアッププログラム、オープンキャンパスのお手伝いから学ぶとこができたと感じているため、今後も機会の提供をつづけてほしい。(中島委員:ウェディングプランナー科・ヘアメイク&ドレス科)

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

・退学率の低減

前年度と比較すると1.9%増加して、7.6%の退学率となった。同分野の姉妹校と比較すると決して大幅な退学率増加とはいえないが看過できない事態である。主たる退学理由としては目標喪失や人間関係などがあげられる。

・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価

連携が円滑に進められている企業様を除き、全ての卒業生の評価の把握はできていない。

② 今後の改善方策

・退学率の低減

まずは生徒が毎日学校に登校することが何よりの退学防止に繋がると考え、退学率目標とともに出席率目標も設定する。生徒が受けなくなる授業を展開するために教員の授業スキルアップに繋がる機会を多く作っている。例えば、学園の教育開発部の研修への促しや、授業見学 WEEK の設定などが挙げられる。また、2年生有志による放課後相談会を開き、1年生が教員だけでなく先輩にも相談しやすい環境を今年度から取り入れる。同時に、退学防止のためのアンケートを1年生に実施し、直接教員や先輩に相談はできない生徒の声も拾い上げている。

・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価

2022年度卒業生(2023年3月卒)を対象とした同窓会を実施する。卒業生同士の交流を促すのはもちろんのこと、卒業生向けの研修を行うことで「卒業後も頼れる学校」という認識を持ってもらいたい。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・通信制高校では毎日学校に登校することが難しく、単位が修得できないことで卒業に至らず退学をするケースが多い。全日制と通信制で学校への通い方や頻度が大きく異なる為、高校の進路指導教員は入学前にそのギャップを減らすことができるように意識をしている。(仁志委員:ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイク&ドレス科)

・卒業生を受入れる企業側の印象として、卒業生の方々は、コミュニケーション能力は高いと感じる。しかし、他の学校と比較すると忍耐力が弱く、ブライダル業界に対して憧れのみを抱いたまま入社するケースが多いと感じている。よって、在学中に数字に対する意識や忍耐力を養うことができるような指導があるとよいと感じる。(安澤委員:ウェディングプランナー科)

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

・卒業生への支援体制

卒業生ネットワークサイト「Sanko Link」の定着ができていないのが現状。教職員の異動も多いため、学校（元担任）と卒業生全体での繋がりが希薄になり、離職状況が完全に把握できていない。

・社会人のニーズを踏まえた教育環境

卒業後の学びなおしの機会の場は提供できていない。

② 今後の改善方策

卒業生ネットワークサイトだけに頼るのではなく、卒業生の LINE の取得を積極的に行いより連絡を取りやすくすることで、卒業生への支援につなげていきたい。新たな卒業後の試みとして、短いスパンで単年度の卒業生のみ的小規模な同窓会を開催することによって、参加率のアップにつながるよう仕組み化を行う。また企業訪問の際に卒業生にどんな支援をしたら良いかをヒアリングし、今後の施策の方向性を決定していきたい。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・同窓会は知っている先生が少ないと参加することを躊躇してしまうため、お越しになる先生が事前にわかるというのではないかと。（保科委員：ブライダルヘアメイク&ドレス科）

・通信制高校出身者は中学校に通えていなかった生徒が多く、様々な人と関わる経験が不足している。そのため失敗することが怖いと感じている学生が多い。失敗は怖くないことだと感じさせることが大切であるため、専門学校においても担任の方々にその意識をもってもらえるとよいのではないかと。（仁志委員：ウェディングプランナー科・ヘアメイク&ドレス科）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・インターンシップの教育体制

インターンシップを選択する生徒の割合、継続する生徒の割合が高くないため現場経験を積むことなく就職する生徒が多数を占めることになる。また、契約期間が過ぎた後に延長する生徒が半分以下となっている。

② 今後の改善方策

インターンシップはもちろん業界内アルバイトの斡旋も行っていくことで即戦力として活躍することができる人材を育成したい。インターンシップの授業の中では、業界で働くことの大切さを重点的に指導。職種を理解や、就活への影響について伝えている。インターンシップを選択はしないが、アルバイトとして結婚式会場で働く生徒の数を増やすことにより、現場経験をいち早く積み、即戦力になるような生徒を育成していく。

③ 特記事項

・海外研修制度あり

・インターンシップは選択科目として運営

④ 学校関係者評価委員会コメント

・インターンシップに参加した学生の印象が、学校の印象として企業側には強く残るケースも多い。そのため、ある程度モチベーションを高めた状態でインターンシップに送り出し、インターンシップ先と学校とで、学生をケアできる環境を作ることが大切だと感じている。（安澤委員:ウェディングプランナー科）

(7)学生 of 受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

特に問題なし

② 今後の改善方策

今後も適正な運営を継続していく

③ 特記事項

なし

③ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023年度～2027年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特に問題なし

② 今後の改善方策

今後も適正な運営を継続していく

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・生徒のボランティア活動奨励・支援

ボランティアに参加することで成長できる旨を生徒に発信はしているが、支援までには至っていない。

② 今後の改善方策

地域に根付いた学校を目指して、姉妹校と合同で「SANKOふぁみりーEXPO」と名付けて、イベントを実施予定。イベント当日は、地域の保育園・幼稚園の子ども達から高校生までを対象に、在校生たちが日ごろの学びを活かしてブースを運営し、職業理解や職業体験を目的に実施する。（2024年11月16日実施予定）

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題

・留学生の受け入れ体制

毎年数名のオープンキャンパス参加者はいるものの、実際に入学をする留学生は少ないため、今後はさらに積極的に取り組む。

② 今後の改善方策

留学生にブライダル業界や学校の認知を広める必要があるため、日本語学校との情報交換を行う。

③ 特記事項

2023年度にウェディングプランナー科が留学生キャリア形成促進プログラムの認定を受けた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本校も開校 10 年を経過したことから学校運営の基礎ができ、大きな問題は起きにくくなっている。だからこそよりきめ細かく在校生支援、卒業生支援、地域貢献等に努めていきたい。

在校生数増に伴い退学者数も増加してしまったことは遺憾である。退学率低減は至上命題と捉えて引き続き力を入れていきたい。